

今年の日出生台 どうなっちゃんの？

特定秘密保護法を利用してのことでしょうか？

今年2月から3月に実施される予定の米軍訓練について、情報がいまだに公表されません。これまでになかったことです。

昨年12月、ローカルネット大分・日出生台が大分県に提出した要請文を掲載します。

大分県知事 広瀬勝貞 様

日出生台での米軍訓練の中止と、米軍訓練に関するすべての情報の徹底公開を国に求めてください。

また、国が県や地元自治体に情報の秘匿を求めるようなことのないよう国に求めるとともに、このような情報公開に逆行する要請を国より受けた場合には毅然とした姿勢でこれを拒否するよう大分県に求めます。

日出生台演習場では、来年2月から、通算10回目となる米軍による実弾射撃訓練が、中止を求め続けて来た私たち住民の願いを踏みにじって、またもや強行されようとしています。

この米軍演習は、演習が開始される前に説明されていた「沖縄の県道104号線を越えて実施されていた155ミリりゅう弾砲の実弾砲撃演習」という名目を、今や大きく逸脱し、155ミリりゅう弾砲だけでなく、小銃、機関銃、重機関銃なども含めた、ありとあらゆる米軍の武器、兵器が使用される場とされています。砲弾についても、7回目となる2010年の米軍演習では、それまで日出生台では一度も使われなかった白りん弾、照明弾が使用され、以前の演習とはまったく様相が異なるものになりました。総砲撃数も年々増加、連射の激しさも激化の一途をたどってきています。

このような演習の拡大強化とともに起きてきたのが、米軍演習に関する情報公開の後退です。演習開始当初は非公開ではなかった米軍部隊の移動情報が6回目となる2006年より非公開扱いとなり、米軍先発隊、本隊、後発隊の日出生台演習場への入りと出に関する情報、米軍車両の大在埠頭からの陸揚げ、搬送、演習後の集団外出の日程情報などが「テロの危険性がある」との名目の下、非公開となりました。

さらに、つい先日12月10日、日出生台において実施されたと推測される米軍による事前調査において、過去9回の事前調査では必ず公開されていたのに、今回は、米軍調査実施の有無も含めてすべての情報が非公開とされる事態となりました。

このような情報公開の問題は、一見、小さなことに過ぎないように見えますが、こうして少しずつ演習の実態は見えなくなり、住民に危険が及んでいないかどうかといったことが確認のしょうがなくなっていくます。米軍の訓練を規定したはずの「米軍使用協定」の意味も根底から失われてしまいかねません。

今回のような国からの情報秘匿要請に対して、毅然とした態度を取ることは、大分県や地元自治体が、これまで続けてきた米軍訓練の拡大と情報公開の縮小後退をくい止めるための数少ない抵抗手段であり、これを許して、「将来的な米軍訓練の縮小廃止」などありえないと私たちは考えます。よって、私たちは、標記に掲げた内容について・強く大分県に要請します。

2014年12月16日

ローカルネット大分・日出生台

訓練が開始されたら、何らかの抗議行動をする予定とのことです。詳細については下記にお問い合わせ下さい。

浦田さん 090-7580-8031 (ローカルネット大分・日出生台)

梶原さん 090-5948-5679 (草の根の会)

日野さん 0977-84-2257 (見成寺)



No.206号

2015年1月15日

発行人 宮崎 優子

事務局 日高 礼子

☎097-544-8892

☎097-544-8892

春の総会

4月5日(日) 13:30~
ライバル2F 会議室
大分市中央町5番街(☎097-573-3770)

今年の意見広告について
アーサービナードさん講演会
6/21日について話し合います。
お待ちしてま〜す。

市民活動を通じて見えてきたこと (その1)

昨年をふり返り、そして今後へ

市民活動家 小手川 裕市

昨年は正月から『別府ラウンドデモ 原発いらない！原発なくそう！』（市内で1日3ヶ所以上の場所に立ち反原発街頭活動を行うもの）を8回（1/1、1/2、1/7、3/28、5/6、7/21、9/27、12/23実施）行い、それ以外にも1年を通じてさまざまな活動を続けてきました。年中活動しまくった感じでしたが、なかでも集団的自衛権行使容認の話が出だしてからは本当に慌ただしくなり、各方面に容認しないようお願いしに行ったり、7・8月には大分、別府両市で合計30回「集団的自衛権は集団的戦争権」との内容で抗議演説を行いました。

同時期に別府市長に原発反対宣言を求める要請署名活動も行っており、そのほかにも週3日定期的に行っている九電別府営業所前の街頭活動、週2日以上行っている別府市内各地での街頭活動、ポスティング（一昨年夏から合計約13万枚、うち自分で約7万枚の反原発PRチラシを戸別配布）、自主上映会（年9回）などを行い、暑い夏の間は台風が襲来した8月9日しか休まなかったせいもあって9月初旬には体調を崩してしまいました。

その時点で無理のない持続可能な市民運動を志向しましたが、なんと少しでも署名活動を成功させたい思いから、9月からはさまざまな団体、組織、個人（一軒一軒ポスティングしながら）に署名のお願いにまわり、地域の公民館で朝5時から行われる早起き会に計8回、ホテルで朝6時から行われる早起き会にも計5回参加させていただき原発の危険性を訴えたりもしました。

完全に体調を崩す一因と思えるのが、9月21日～25日の5日間で約100人程の自治会長宅（不在宅を含む）を回り原発反対の署名への御協力をお願いしたことでした。個人的な体調管理を考えればこのお願い行動は失敗でしたが、いろいろな人と出会い、知り合いになりお話しすることが出来たことは、良い経験でありまた出会いに感謝しています。

そして様々な方の御協力を得て2004人分の署名を集め11月5日に別府市に署名を提出（合同新聞、今日新聞が記事にしてくださった）することが出来ました（この署名の趣旨は、命と健康そして子どもたちの未来を守るためにはすべての原発をなくすことが必要であるということ。また次の原発事故は国際的観光地である別府市として死活的問題）。その直前である10月29日に自分の住む地域で行われた『別府市長と語る会』に参加し「市民の命を守るため、原発再稼働への動きを止める大きな流れを別府からつくってほしい」と訴え、11月4日に他の地域で行われた『語る会』の閉会后にも原発反対宣言をするよう直接お願いし、その翌日署名を市に提出しましたが、今のところわたしの願いはかなえられていません。

わたしは、1年以上原発が動いていない今こそが原発をすべてなくしていく好機であると考え、そのため近いうちにあるチャレンジをするつもりです。原発をなくすことで市民の命を守ることが出来るのであれば、自分の命に代えてでも構わない。そのくらいの意気込みで今後も取り組んでまいります。



昨年10月20日九電日田営業所前にてこれにより大分県内すべての九電前で街頭活動を達成

●赤とんぼの会 2014年度 会費 会計報告●

収入 555,545円 … 前年度繰り越し、会費、預金利子他
 支出 209,845円 … 印刷費、通信費、家賃他
 残高 345,700円 … 555,545円-209,845円

●2014年 赤とんぼ意見広告会計報告●

収入 3,508,506円 … 意見広告費(3,129人)、利子他
 支出 2,798,935円 … 広告料、印刷費、通信費、家賃他
 残高 709,571円 … 3,508,506円-2,798,935円

●澤地久枝さん講演会会計報告●

収入 524,098円 … これまでの赤とんぼ広告費余剰金より
 支出 407,471円 … 謝礼・会場費他
 残高 116,627円 … 524,098円-407,471円

◆8/15新聞意見広告に掲載できなかった方

五十嵐昭之助さん その他匿名 3名
 千 恵さん

◆新聞掲載名の訂正

吉田美枝子 → 吉野美枝子 さん



戦争を語る～元衛生兵の証言～

おお た だい みつ
太 田 大 光 さん (88歳)

私は大正15年9月、大分県三重町生まれです。その後、緒方町に家族全員で移り住みました。昭和19年に徴兵検査を受け、宮崎県の都城で入隊しました。入隊する前の夜、両親が私を真ん中にして一緒に寝てくれたことを覚えています。

都城では第3大隊に所属し、重機関銃を持たされました。重機関銃は、銃身・銃脚合わせて60kgの大変重い機関銃です。これを4人で持つのです。訓練はとて厳しく、練兵場で重機関銃を300mも毎日引っ張らされました。班長は梶棒を持って監視しています。弾は1秒間に770～800mほど飛び、煙が上がるとほぼ同時に300m先のものに当たりました。訓練の間に空襲警報が鳴り、敵機が来たことがあります。その時は練兵場に掘った「蛸壺」に入り、重機関銃を構えました。敵機の高度が600m以下になれば、撃って良いことになっていたのです。でも、なかなか600m以下になることはありません。それでも3回ほど撃ちました。敵機はB29を中心に、周りを護衛のグラマンが取り囲み、合わせて15機ほど。全部で40機以上あったように思います。下から見上げると、まるでミツバチのようでした。

訓練期間が終わると「やれやれこれで叩かれるのも終わった。」と思いました。しかしその後特別衛生教育を受けるために熊本へ行かされました。そして鹿児島島の隊付きの衛生兵となったのです。

毎日兵隊と行動を共にし、傷ついた人を治す訓練をしていました。ある日、私が居残り当番で陣地に残っていた時、突然空襲警報が鳴り、敵機が攻めてきました。私は食糧の管理もしていたため、十何人かのメシが入った樽を抱えて逃げたところ、ヒューンと音がして爆弾が落ちました。凄まじい攻撃でした。そこへ大隊本部から「医務室がやられた」という連絡が入り、私は急な山道を下って2kmを走りました。班長に会ったら、右手の小指がとんでいました。30名ほどやられて、そのうち3名は即死でした。顔に3発の弾が当たったり、爆弾の破片で横腹がなくなったりしていました。二人で抱えると腸が出たので、せり込んで拭いてやりました。目玉が一尺くらいぶら下がっている兵隊もいました。2回目の空襲警報もありましたが、爆弾は落とされませんでした。一番先に逃げたのは将校です。その次が班長。動ける軽傷患者は逃げ、最後に残ったのが重症患者です。よく「天皇陛下万歳！」と言って・・・と言いますが、聞いたことがありません。いよいよ死ぬ間際は、両親や兄弟のことばかりでした。

都城にいた時、軍旗祭（軍の祝賀行事）がありました。日頃は食糧の少ない軍隊生活でしたが、軍旗祭では、兵隊一人につき2～5人の面会者が、紅白の餅やら好物をこしらえて持ってきていました。ところが、沖縄出身の人には誰も面会に来なかったのです。他の人たちは差し入れられた好物を食べましたが、誰も来なかった沖縄の人は残ったメシを一人で食べました。その晩のことです。その人が医務室で洗面器に8合ほど吐きました。そして、そのまま死んでしまったのです。

また、こんなこともありました。ある兵隊が熱病に罹り、私は一晩寝ないで看病しました。ようやく回復したところ、親御さんからのチョコキや食糧の差し入れが間違っって別の中隊に届いたという連絡が入りました。その兵隊は喜んで差し入れを取りにいきました。しかしその帰り、隊の周りに張り巡らせた防御のための電線に誤って接触し死んでいたのです。額に横一線、黒い筋がついていました。せっかく熱病を克服したというのに。

終戦時は鹿児島でした。しかし上司からは何も知らされませんでした。上司は逃げていたのです。民間の人から「日本は負けた」と教えられ、「さげなことはない！」と喧嘩になりました。しかしそれが本当だとわかると、仮兵舎だった学校の校庭で軍旗を焼きました。アメリカ兵に捕まると殺されると思い始末したのです。終戦直後の身の振り方は、各中隊長の判断で違いました。「石に嘔り付いてでも帰れ」という人もいましたが、私達の中隊長は「命令があるまで動くな」と言いました。そこで暫く留まっていたのですが、班長とも相談し線路沿いに帰ることにしたのです。

もう二度と戦争をしちゃいかんです。今度何かあったら、一番に行かされるのは自衛隊の若者です。今、その事をとてとても心配しています。（談）

河上がお話を伺いました。入隊前にご両親と寝たエピソードや、自衛隊の若者を心配して話されるとき、涙を流していらっやいました。貴重なお話ありがとうございました。（河上しげみ）

読んでみませんか?

古庄 ゆき子

「衆院選 きよう投票 「私たち」になるために」

記憶されている方もあるかと思いますが、昨年12月14日の『朝日新聞』社説。突然安倍首相が「国民に信を問う」とい出し、その結果この日が投票日となったその朝、「朝日」の社説は読者に最後の考えをめぐらすことを求めるように、自分が一票を投じたところで、一体何が変わるかと、棄権に傾く人にもわかって、

確かに一票は限りなく軽い。ただ「私」の一票が手元を離れ、「私たち」の民意になることには意味がある(中略)一票が群れて民意を成す。そこに政治を変える可能性が生まれる。と語りかけています。そして「選挙に期待されるひとつの役割」を、どのような社会に生きたいか。そのためにはどのような道筋があるか。候補者の言葉に耳を澄ませ、有権者のひとりひとりが自分の頭で考え、議論し、時に候補者に打ち返す。そ

の契機を提供することにあるとし、だが今その「思い」を託し、くみ取る、有権者と政治家の回路が切れてしまっている困難な状況も示しています。

また「私」と「私たち」がつながりを失い、ある部分は政治的無関心層となり、ある部分は固くて狭い「日本人」感覚にひかれてゆき、社会にさまざまな分断線が引かれたといえます。特定の民族への憎悪をおおるヘイトスピーチ。雑誌やネット上に躍る「赤国」の言葉。選挙候補者への悪質なデマ。今回の選挙では個々の政策への賛否とは別に、「私たち」をどう再び築いていくかの問題が問われていると述べています。1990年代以来扱った「決める」ことこそ政治」という政治観に代わる、「多様な民意」を反映させようとする考えです。社説は最後に

「私たち」は道具ではなく、この国の主権者である。自信と誇りをもって、自らに代わって議する者に意志を示し続けねばならない。(中略)一票を投じる。政治が本来持っているはずの豊かさや潤いを取り戻すための一歩として。と結ばれています。

5月3日 憲法記念日講演会

・講師・ はじめ
川口 創 氏
弁護士
(イラク派兵差止訴訟弁護団事務局長)
著書「立憲主義の
破壊に抗う」
(新日本出版 2014.8.30)

5月3日(日)
10:00~

大分県教育会館
(大分市下郡字長谷)

入場無料

・主催・
平和憲法を守る会・大分
・連絡・
097-534-3436
(共同法律事務所)

名もなき ひとむれ

5月3日(日) 13:30~
大分トキハ前

弁護士会公開市民講座

「集団的自衛権 の問題点」

まごさき うける
講師/孫崎 享さん
(元外務省国際情報局局長)
日時/1月17日(土)
10:00~
場所/コンパル
多目的ホール
参加費/無料
主催/大分県弁護士会
連絡/097-536-1458

市民連絡会おおいた

総会記念講演 「沖縄から見える 憲法破壊」

講師/伊波 洋一さん
(元宜野湾市長)
日時/3月21日(土)
14:00~16:00
場所/コンパル視聴覚室
協力費/1,000円
主催/憲法・教育基本法改悪に
反対する市民連絡会・大分
連絡/090-4583-8797
(池田)

市民集会

「建国記念の日」に 抗議する市民集会

講師/加島 宏さん
(弁護士・安倍首相靖国
参拜違憲訴訟弁護団長)
日時/2月11日(水)
13:30~
場所/コンパル視聴覚室
入場カンパ/1,000円
主催/天皇問題を考える
市民ネットワーク
連絡/097-534-6116
(しまだ)

お知らせ

今年も全国市民意見広告
広告主募集中です

個人1口2千円 4/8まで

郵便振替

00110151723920

「憲法9条にノーベル平和賞を」

署名今年も集めています
これまで署名していない人対象です

◆編集後記◆

有権者数のたった17%で大量議席を獲得できる日本の議会のしくみ。日本はどこまで転がって行くのだろうか。

原発やめようえ おかあちゃん パレード

日時/1月25日(日)
13:30~15:00
場所/大手公園 集合
主催/ハッピーパレード
月イチ実行委員会
連絡/080-3953-1099
(秋月/日中のみ)

声に出して読んでみましよう憲法九条

「戦争の放棄、戦力の不保持・交戦権不承認」

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段として、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

赤とんぼの会事務局 〒八七〇〇八五五 大分市豊饒四組 みんなの家
TEL/FAX 097(544)8892(郵便振込)015401012160
ホームページ)http://aka-tombo.com/メール)aka-tombo@hotmail.co.jp